

# 営農ウィークリー NEWS

## 京都茄子・京おくら PR 活動を行いました



8月2日、京都駅地下街にある、みのりカフェ前にて、特産品の「京都茄子」と「京おくら」のPR活動を行いました。

新鮮な野菜の見分け方に加え、SDGsの取組で、大きくなりすぎてしまった、キズがある、といった「京都茄子」「京おくら」の販売を行い、多くの消費者へPRしました。

当日は、光華女子大学短期大学部ライフデザイン学科の学生7人が、授業の一環で活動に参加し、学生

自らが考案した、「京おくら」のレシピをもとに、調理法や食べ方などの提供をし、お買い求めいただいた消費者へ紹介しました。

このレシピは、6月に行われた試食会で提供された、上位6品が記載されたものです。

今後、8月23日（金）にも、同会場にて開催を計画しています。



JA 全農京都～「みのるダイニング」にて～

「季節の膳」

～京おくらと京都ポークのしゃぶしゃぶ～提供開始

—TAC information—



8月1日より、全農京都府本部が運営する、みのるダイニング京都ポルタ店にて、【季節の膳～京おくらと京都ポークのしゃぶしゃぶ～】の提供が開始されました。提供期間は、8月1日～8月31日までの限定商品です。ご来店の際はぜひ、ご賞味ください。

\*場 所：京都駅前地下街ポルタ

\*営業時間：11:00～22:00 (L.O. 21:00)





関係各位

京都府病害虫防除所長  
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

## 病害虫発生予察注意報第 2 号

作物名 水稲  
病害虫名 斑点米カメムシ類

- 1 発生地域 府内全域
- 2 加害時期 出穂期から収穫期まで
- 3 発生量 平年比多い
- 4 防除時期 出穂期、揃期及び傾穂期
- 5 注意報発令の根拠

(1) 7 月中旬に行った水田内のすくい取り調査の結果、府内全域の確認発生率は 23.3% で平年比やや多く、**平均虫数は 1.5 頭で平年比多い**(表 1)。

主要な発生種は、アカヒゲホソミドリカスミカメ(写真 1)、アカスジカスミカメ(写真 2)、ホソハリカメムシ(写真 3)、クモヘリカメムシ(写真 5) 及びイネカメムシ(写真 7)であった。

表 1 斑点米カメムシ類調査結果(7 月第 3～4 半旬：本田 20 回採りすくい取り調査)

年度	山城		南丹		中丹		丹後		京都府	
	確認発生率	虫数	確認発生率	虫数	確認発生率	虫数	確認発生率	虫数	確認発生率	虫数
R 6	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	2.8	44.4	3.0	23.3	1.5
平年比	少	少	やや少	やや少	多	多	多	多	やや多	多
R 5	23.3	0.7	22.2	0.5	8.3	0.1	14.4	0.4	17.3	0.4
R 4	16.7	0.2	55.6	0.6	16.7	0.2	22.2	0.2	30.0	0.3
R 3	16.7	1.2	22.2	1.2	0.0	0.0	33.3	1.0	20.0	0.9
R 2	50.0	1.8	33.3	0.6	16.7	0.3	11.1	0.1	26.7	0.6
R 1	0.0	0.0	33.3	1.0	16.7	0.2	22.2	0.6	20.0	0.5
H 30	66.7	2.0	22.2	0.2	16.7	0.2	33.3	1.4	33.3	0.9
H 29	16.7	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.3	6.7	0.2
H 28	16.7	0.2	0.0	0.0	16.7	0.3	0.0	0.0	6.7	0.1
H 27	16.7	0.2	11.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.1
H 26	16.7	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.3	6.7	0.2
	16.7	0.2	44.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.3

(2) 7 月中旬に行った畦畔のすくい取り調査の結果、山城では平年並、南丹では平年比やや少なかつたが、**中丹及び丹後では平年比多い発生**。

主要な発生種は、アカヒゲホソミドリカスミカメ(写真 1)、アカスジカスミカメ(写真 2)、ホソハリカメムシ(写真 3)、トゲシラホソカメムシ(写真 4)、クモヘリカメムシ(写真 5)であった。

- (3) イネカメムシの子察灯(6.0W)への誘殺数は、京田辺市及び京丹後市で平年比多く、亀岡市で平年比やや多い(+)
- (4) これまでに山城地域と丹波地域の一部でミニミアオカメムシ(写真 6)の発生を確認している。ミニミアオカメムシの子察灯(6.0W)への誘殺数は、京田辺市で平年比多く(+)、亀岡市で平年比やや多く(+)、京丹後市では誘殺を認めていない(平年並)。子察灯(BL)への誘殺数は、京田辺市で平年比やや多く(+)、亀岡市で平年比多く(+)、京丹後市で誘殺を認めていない(平年並)。
- (5) 向こう 1 か月の気温は平年比高い(+ )と予想されている。



(写真 1) アカヒゲホソミドリカスミカメ



(写真 2) アカスジカスミカメ



(写真 3) ホソハリカメムシ



(写真 4) トゲシラホソカメムシ



(写真 5) クモヘリカメムシ



(写真 6) ミニミアオカメムシ



(写真 7) イネカメムシ

### 6 防除上の留意事項

#### (1) 耕種的防除

斑点米カメムシ類はイネ科雑草の種子を餌とする。したがって、水田周辺のカメムシ類の生息密度を下げるためには、畦畔の草刈りを行うことが有効である。草刈りは、イネが出穂する 2～3 週間前と出穂直前の 2 回行うと効果的である。作業の都合上、1 回で済ませる場合は、必ず出穂の 10 日前までに草刈り等を済ませる。

出穂期に近づきすぎたから行うと、カメムシ類を水田に追い込み、かえって逆効果となる。水田内のイネ科雑草は、カメムシ類の水田への侵入を助長するので出穂前に除草する。

(2) 農薬による防除  
カメムシ類の密度が高い水田では、薬剤による防除を穂揃期と傾穂期の 2 回行うことが望ましい。

近年、イネカメムシの発生量が増加している。他の斑点米カメムシ類と異なり、出穂期に水稲の穂の基部を吸汁して不稔穂を生じさせ、穂が充実せず直立する。そのため、イネカメムシが多発している場合は、穂揃期以降ではなく**出穂期から防除**することが重要である。また、穂揃期以降に加害されると穂の基部が変色した斑点米を生じ、等級格下げの原因となる。

農薬の散布にあたっては散布適期を確認し、周辺作物に飛散しないよう十分注意する。